



2024年12月 5日
第89号

JR東労組 Yokohama

JR東労組横浜地本

発行人 梶田 優一

編集 情宣 担当

ホームページ

<http://www.jreu-yokohama1.jp/>



衆議院議員選挙の結果 ～どの政党が支持された？～

選挙結果は議席数の増減だけが注目されがちですが、どの政党がどれだけ得票したか、という点を踏まえて総括しないと、結果を見誤り、間違った対応をしてしまいます。というわけで、各政党の比例代表で獲得した議席と得票数を前回の衆議院選挙と比べてどれだけ増減したか、表にしてみました。

	24年獲得議席	議席増減	24年獲得票数	前回からの得票数増減
自由民主党	59	-6	14,582,690	-5,332,193
公明党	20	-3	5,964,415	-1,149,867
立憲民主党	44	6	11,564,217	72,123
日本維新の会	15	-11	5,105,127	-2,945,703
国民民主党	17	14	6,172,427	3,579,031
社会民主党	0	0	934,598	-83,990
れいわ新選組	9	6	3,805,060	1,589,412
日本共産党	7	-2	3,362,966	-803,110
参政党	3	2	1,870,347	1,870,347
日本保守党	2	2	1,145,622	1,145,622
みんなで作る党	0	0	23,784	-773,004
安楽死制度を考える会	0	0	18,455	18,455

今回の比例区の特徴は、与党および日本維新の会が大きく得票を減らし、その減った分がどこに配分されるか、というものでした。前回から得票を減らした政党の減少分合計は1108万7867票になります。立憲民主党は合計で50議席も増加しましたが、比例の得票数の増加は7万票程度で、まったく受け皿になっていないことがわかります。残った約1100万票の行方は、まず国民民主党に358万票、れいわ新選組に159万票の上乗せをもたらしました。この2党は前回ほぼ互角であったため、政策や戦略に差が出たものと思われます。残りは今回が初選挙の参政党に187万票、日本保守党に114万票となっています。(※参政党は維新から1名移籍があったため初選挙ながら1議席有りからスタート) しかし、得票を伸ばした全政党の合計は827万4990票しかなく、残りの281万2877票はどの政党にも投票されませんでした。

インターネット選挙戦略は効果があったのか

衆議院議員選挙後、インターネット選挙で勝敗がついた、というような言説が、テレビや新聞を賑わしました。ですが、例えば11月24日に名古屋市長選挙がありました。インターネット選挙で勝利したはずの国民民主党から大塚耕平議員が無所属で出馬しましたが、惜敗しています。それどころか、当然ながら大塚候補を推す国民民主党の玉木代表のSNSには、大塚候補を推すことへの批判が殺到していました。インターネット戦略に影響力が無い証左としか思えません。では、なぜインターネット選挙をテレビや新聞が持て囃したのでしょうか。選挙前にテレビや新聞が何を報道し、誰を出演させていたか、というのを見ないとはいけません。

結果を見てしっかり総括、次に活かす運動を創り出そう！！